

経鼻上部消化管（胃）内視鏡検査予約票 様 I D:

予約日:

検査当日は午前8時30分に来院して

再来受付機で受付後、1階の消化器内科外来に予約票、診察券、診療情報提供書(紹介状)等を提出してください。お薬手帳を必ずお持ちください。

【注意点】

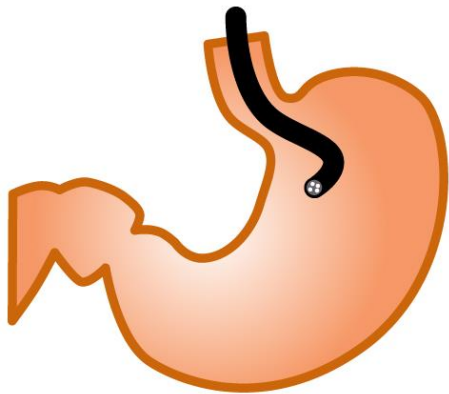
- ・検査前日は、夕食はなるべく午後9時迄に済ませ、水分は水のみにしてください。
(水以外の水分は摂取しないでください)
- ・検査当日は、朝から食事をしないでください。午前7時以降は水分摂取もせずにお越しください。
- ・検査当日の朝は、**糖尿病用薬**は服用しないでください。インシュリン注射も打たないでください。検査終了後、食事が可能になってから、服用、注射してください。その他で朝に服用されている薬がある場合午前7時まで服用してください。
- ・**抗血小板薬や抗凝固薬**を服用されている方は医師の指示に従ってください。
- ・検査当日は、お薬手帳、箱ティッシュ、タオルを持参してください。
- 1. 検査室では、お腹をしめつけるものをゆるめてベッドに休んでください。女性の方は口紅を落としてください。
- 2. 検査終了後1時間は、のどの麻酔が効いているため、飲食はできません。1時間後に水を少量飲んで、むせなければ食事ができます。なお、検査前及び検査後1時間は禁煙です。

市立貝塚病院 地域医療連携室

(072) 422-5865

経鼻上部内視鏡検査 説明文書

検査の目的



鼻から内視鏡を挿入し、上部消化管（食道、胃、十二指腸）を直接観察することで、これらの場所の病気（ポリープ、腫瘍、潰瘍、炎症、静脈瘤など）の診断や治療方針を決定することを目的とした検査です。

鼻を内視鏡が通過するため、鼻腔の通過障害がある方や鼻炎や鼻出血など鼻腔の疾患がある場合はできない場合があります。

検査の方法



内視鏡で上部消化管を観察するためには、胃の中を空にする必要があります。検査の前日の午後 9 時以降食事を止めていただき、検査を行います。検査直前に鼻の麻酔を行います。また消化管の動きを抑える注射を行います。所要時間は、個人差がありますが 10 分から 20 分程度です。鼻を内視鏡が通過する際には鼻のなかの軽度の痛みや出血が起こる場合があります。また喉のあたりを内視鏡が通過する際にごくまれに嘔吐反射や咳反射が出る場合があります。内視鏡挿入後はつばをすべて吐き出してください。飲み込みますと気管につばが入り、咳き込んだり、肺炎の原因となったりします。検査中胃の中に空気を入れますので、お腹が張った感じがしますが、できるだけげっぷを我慢してください。

何か病変が認められたり、疑われた場合には必要に応じて次のようなことが行われます。

- 1) 病変部分に安全な色素を散布し、病変を明瞭にして診断の助けとします。
- 2) 病変の一部を鉗子でつまみ（生検）、組織（細胞）の検査を行います。
- 3) 出血が見られた場合には止血処置を行います。
- 4) その他緊急に治療を要する病変を認めた場合は、必要に応じて治療を行います。

★出血傾向がある場合や抗血小板薬や抗凝固薬を服用中の場合には、生検を行わない場合があります。また、組織検査については、当院医師の判断により実施します。

検査の安全性や起こりうる偶発症

経鼻内視鏡検査に伴う偶発症は、多くは鼻出血で 2 - 3 % に起こると言われています。鼻炎をお持ちの方や鼻出血を繰り返している方では、鼻出血が起こりやすく、鼻腔が狭いと内視鏡が挿入できない場合もあります。内視鏡が擦れることによる鼻痛も起こる場合があります。非常にまれですが穿孔（消化管に穴があくこと）の報告もあります。前処置薬や鎮静剤の使用に伴

う偶発症も報告されています。抗血小板薬や抗凝固薬を内服中の方では、出血のリスクが高いため、これらの薬剤を検査前に中止していただく場合があります。しかし、薬剤中止に伴い脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓症などの血栓塞栓症を発症した症例も報告されています。これらのリスクについては投薬した主治医と相談する必要がありますが、100%これらの偶発症を予防することはできません。

万一偶発症が起きた場合には、最善の処置、治療を行います。病状によっては入院、緊急の処置、輸血、手術などが必要になる場合があります。その際の診療も通常の保険診療にて行います。

代替となる他の検査方法

上部消化管に対する内視鏡検査には他に口から挿入する上部消化管内視鏡検査があります。経鼻内視鏡にくらべて喉のあたりを内視鏡が通過する際に嘔吐反射や咳反射が出やすく、苦痛を感じます。しかし、内視鏡の画質は良く精密検査に適しており、また止血術などの治療も行うことができます。内視鏡検査以外には、バリウムなどの造影剤を用いた上部消化管X線検査があります。この検査でも病変の有無を調べることができますが、病変の良悪の鑑別は難しい場合が多く、生検による組織検査はできませんので、確定診断とはなりません。またX線被曝の問題やバリウムの誤嚥による肺炎の問題もあります。

検査を受けなかった場合の予後

正確な診断ができない可能性がありますので、適切な治療を受ける機会が遅れたり、受けられなかったりする可能性があります。

検査の同意を撤回する場合

いったん同意書を提出しても、検査が開始されるまでは検査をやめることができます。やめる場合にはその旨をご連絡ください。検査に関連して不明な点がございましたら、主治医にご相談ください。

【連絡先】

住所：大阪府貝塚市堀3丁目10番20号

病院：市立貝塚病院

地域医療連携室

電話：072-422-5865